

専門学校及び大学の部

優秀賞

「中国のサラリーマンをおきなわに呼び込もう」

沖縄国際大学 産業情報学部企業システム学科 3 年次 コーバイハウ

沖縄に来て、4 年目になった。留学して以来、沖縄に住めば住むほど沖縄が好きになった。外国人としてではなく、県民として、沖縄の観光産業が盛んになって行くのを心から願っている。沖縄は基地の島ともいわれているが、近年は観光リゾートとしてのイメージが強くなってきている。沖縄観光の最大の魅力は「青い海」、「青い空」である。特に、サンゴ礁に囲まれた沖縄の海の美しさは世界でも有数だと言われている。夏は沖縄の海と空が最も輝く季節で、多くの若者や家族連れがダイビングや海水浴などのマリンスポーツを楽しんでいる。また、日本で唯一亜熱帯海洋性気候に属する沖縄は年間を通して温暖で、冬でも花と緑を楽しむことができる。

沖縄県では、平成 28 年度までに海外誘客 100 万人（ビジットおきなわ計画）の達成を目標としているが、沖縄を訪れる外国人観光客は全体のわずか 5.5%（平成 23 年度：30 万人）であり、その増加が課題となっているところである。平成 21 年度に構築した沖縄県の海外重点地域（台湾、韓国、中国、香港）の戦略モデルに基づき、各地域におけるプロモーションを実施するとともに、新規市場からの誘客促進を目指し米国をとりかかりとした事業実施した。今後増加が見込まれる中国人個人観光客の受入れ体制の整備を行うことで、外国人観光客の誘客促進を図り、ビジットおきなわ計画の達成を目指している。

2011 年に日本は、沖縄の「マルチビザ」は中国人向け観光ビザの発給条件が大

幅に緩和され、富裕層だけでなく、中間層も日本への個人自由旅行が可能となった。

2011年3月1日、中国人ブロガー、葉檀（イエ・タン）氏は「中国のサラリーマンの月給も日本人並みに、月給30万元もザラになる」と題した記事を中国のブログサイト・鳳凰博報に掲載した。筆者は、中国の中産階級に分類されるサラリーマンの月給が今後20～30年以内に、今の日本と同等の水準にまで引き上げられると予測している。作年中国内地の賃金大幅値上がりの影響を受け、サラリーマンの給料も平均3割ほどあがった。長い目で見れば、中国のサラリーマンを沖縄に呼び込むことによって、沖縄観光産業は経済へも大きな貢献が見込まれる。

しかし、沖縄は台湾、香港に向けて公報活動が盛んに行われているが、中国本土への宣伝力はまだまだ足りない状態である。沖縄の知名度は日本本土の他の観光地より低い。観光客を誘致するためには、まず、コミュニケーションの媒体を利用し、インターネットでの宣伝に力を入れ、中国のサラリーマンがよく使っているSNSサイトに沖縄の観光情報を宣伝することである。中国のサラリーマンは頻繁にネットで情報を検索するため、SNSサイトやFACEBOOKなど人気のサイトを利用して宣伝するべきである。中国のサラリーマンの月給は高くなる一方、多くの現代人は、複雑な人間関係や競争社会に疲れ、何らかのストレスを抱えている。もし沖縄ののんびりしている生活、「青い空」、「青い海」、「癒しの楽園」というイメージを中国のサラリーマンに伝えれば、沖縄に来る中国のサラリーマンはきっと増えると思う。

次に、中国の俳優や歌手を起用しイメージ・キャラクター契約を締結して、宣伝に力を入れて観光客を誘致する。例えば、昨年、中国国内で日本の東北地方をめぐる3泊4日のツアーを企画し中国で最も有名な俳優の胡兵とイメー

ジ・キャラクター契約を締結し、中国人観光客の呼び込みに成功している。160人の枠は1週間で埋まった。仙台で開かれたディナーショーでは中国人女性への歓声がやまなかった。沖縄で中国の知名度の高い俳優や歌手を起用して、CMを作り、中国のテレビやインターネットで放送する。また、沖縄の観光情報を中国語に通訳して宣伝すると効果が出るのではないだろうか。

さらに、中国の高月給のサラリーマンは上海、北京だけでなく、発展途上都市にもたくさんいるので、航空会社の直行便は上海、北京以外、これらの発展途上の都市にも目を向けて行くべきである。例えば中国の武漢、アモイ、青島といった発展途上都市にも国際便を増やし、旅客の伸びに対応する必要に迫られている。サラリーマンの休暇は短いので直行便があれば、飛行機に乗る時間が短縮できて、旅行の時間も長くなると、さらに楽しめると考えられる。2012年から中国上海の東方航空が週4便から7便に変更されたことなどから、前年と比べて大幅な回復となった。今年7月出発するロイヤルカリビアンクルーズの売れ行きも順調とのことから引き続き好調な推移が見込まれる。これを発展途上都市に宣伝できたら、もっと観光客が増えてくると考えられる。

また、中国人観光客に特有なサービスを提供する。中国の観光客によりよいサービスを提供するため、南アフリカ航空は北京直行便に中国語が話せる乗務員を1人以上配置している。シンガポール航空は中国を出発する全ての便の座席に、娯楽システムを装備し、中国語のシステム操作案内を提供している。ANAは中国語のホームページの充実を図り、中国の観光客はネット上の予約もできるようになっている。このように、ネットを頻繁に使用しているサラリーマンにとっては、最も魅力的なものになるであろう。そして、沖縄に来た観光客に向けて、地元の人々の熱心さを感じてもらう。そのためにまず、沖縄の国際通りの飲食店で、日本語のメニューだけでなく、中国語のメニューがあれば、

観光客が理解でき、好きな料理が選べられる。次に、バスの説明、案内をはっきり観光客に伝えるために中国語の説明も必要である。また、現在沖縄にあるATMはほとんど外国人のカードを受け付けないので、外国人向けの両替、ATM、カード利用なども使用できるようにする。それらの設置は早急に迫られていることである。

最後に、観光振興を図るため、映像作品の撮影誘致及び支援を積極的に行うべきである。特に海外作品誘致と海外観光客誘客を目的とする映像作品である。例えば、「琉球王国」や「癒しの楽園沖縄」をタイトルとして、それに関連するドラマを作成し、経済利益をもたらすように宣伝する。昨年大河ドラマである「龍馬伝」は現地の観光誘客促進に貢献した成功例でもある。また、沖縄の自然を利用して、文化観光スポーツ大会を開催し、海外に宣伝すると、スポーツを観戦するのが好きな中国のサラリーマンが増えると考えられる。

豊かな自然と独自の文化、そして人情味にあふれた県民性を併せ持つ沖縄は海外重点地域や新規市場におけるプロモーションを実施することが望まれる。そして、今後増加が見込まれる中国サラリーマン観光客の受入れ体制の整備を図り、成長市場の誘客増加を図ることで、ビジットおきなわ計画の達成はできるだろう。

参考文献：

<http://www.recordchina.co.jp/group.php?groupid=44995>

http://www2.cc22.ne.jp/hiro_ko/2-31b-mikkou.html

